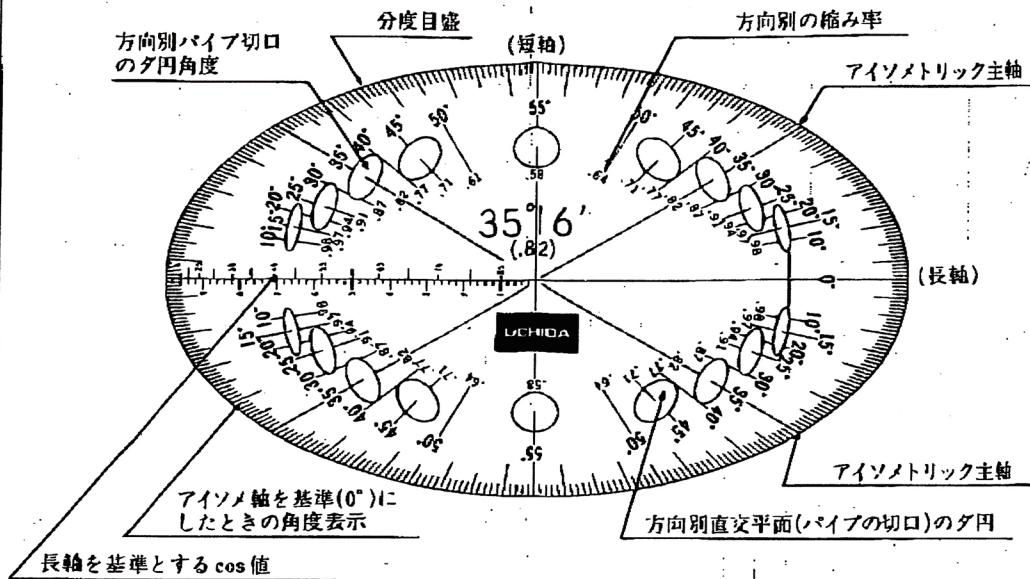


分度器の要素の説明



分度器使用説明

立体角分度器はふつうの全円分度器を手前側または向う側へ傾けたときの、円と角度目盛の投影を第1図のようにダ円と立体角目盛として表わしたものです。このとき全円分度器の傾け方によって、ダ円も角度目盛も違ってきます。元の全円分度器の傾き角にしたがって、25°、30°、35°、45°、55° の分度器と呼んでいます。

1. 「分度器のえらび方」………

平面上においては、その平面に適用されたダ円の角度と同じ角度表示の立体分度器を使います。ふつうの等角図法の立方体や箱の面では35°の分度器を使います。

2. 「分度器のあてはめ方」

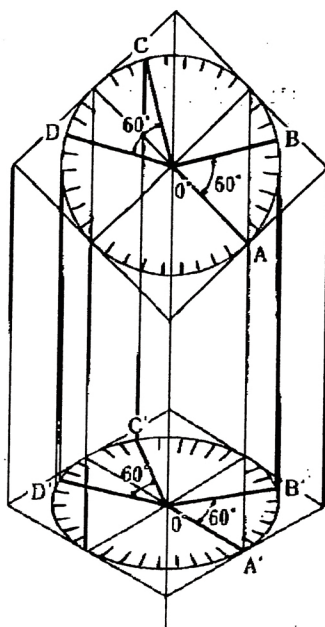
分度器は平面上のダ円と全く同じ向きに置いて使います。等角立方体では平面・正面・側面に応じて3つの置き方があります。

3. 「度数表示」

X軸線を0°として反時計回りに度数を読みます。

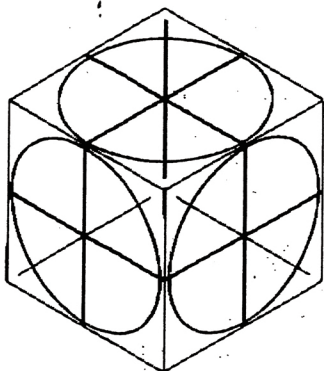
4. 「方向別縮み尺」

ある長さをもった棒を平面上でまわすとき方向によって違った作図長さを持ちます。正横(ダ円長軸方向)

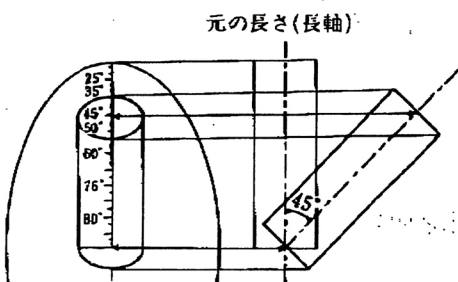


第1図分度目盛の原理



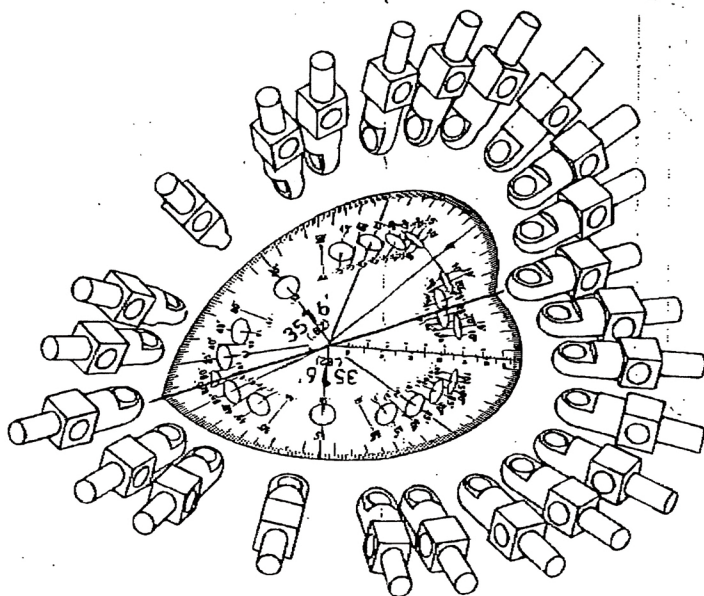


第2図分度器を使う平面
と分度器のあて方



第3図cos 値スケールの使い方

第4図分度器を使って方向の違う形を割出した例図



を1とし各方向の作図長さの割合を小数点以下3位迄の小数で示しています。

5.「方向と直交する平面上のタ円(パイプの切口)」

パイプの切口も向きによって形が変わります。この方向に対するタ円を図と数値で表わしています。

6.「方向と平行な直立平面のタ円」

第4図のサイコロ側面のようなタ円角度を方向別に図と数値で示します。これは「パイプ切口」と90°位相がずれているとしても同じです。

7. cos 値スケール

立体空間を自由に振れ廻る物体の、元の長さ(長軸)に対する cos 値によって(第3図)適用する切口のタ円角度を直接求めることができます。

8. この分度器によって、第4図のようないろいろな方向についての必要なデータerをすべて求めることができます。